

豊岡市大交流（観光） ビジョン策定委員会協議資料

第6回

— 推進体制及び活動領域、目標設定、観光振興財源、ビジョン素案—

2019年2月25日

1

前回までの議論の確認
(全体像、取組み方針と取り組む大交流モデル)

2

本日議論いただく内容 (①推進体制及び活動領域)

3

本日議論いただく内容 (②目標設定)

4

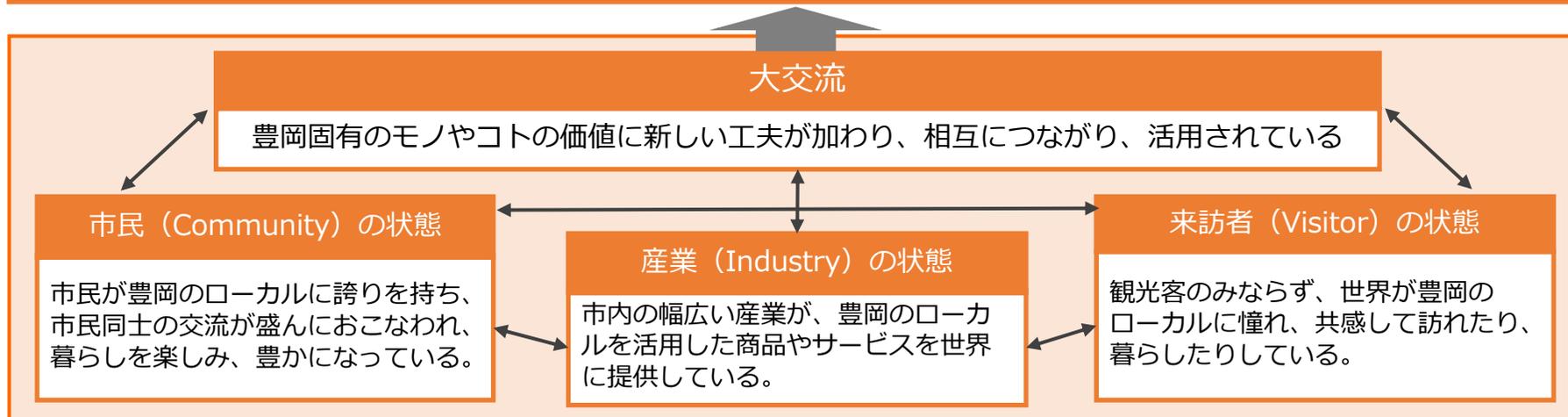
本日議論いただく内容 (③観光振興財源)

5

本日議論いただく内容 (④ビジョン素案)

小さな世界都市 Local & Global City

大交流を通じて豊岡にイノベーションが起きている



解決すべき課題

- ① 市民が豊岡観光を楽しめていない
- ② 市民全員がおもてなしに取り組む土壌ができていない
- ③ 市民が観光による豊かさを感じられていない

+

- ① 幅広い産業が観光に関わっていない
- ② 地消地産が進まない、ローカルを活用できていない
- ③ 観光産業の働き手の確保が困難となっている

+

- ① 豊岡ブランドが知られていない
- ② 市内の観光地が点在し相互に連携できていないため、回遊できていない
- ③ 豊岡のローカルの魅力を満喫できていない

掛け合わせる対応策

- ① すべての人が観光を楽しめる環境の整備
- ② 観光コミュニケーションの推進
- ③ 市民生活と観光の調和

×

- ① 産業間の協業促進や起業支援
- ② 高付加価値化による地消地産の促進
- ③ 観光需要の平準化と雇用環境の改善

×

- ① マーケティングの強化
- ② 地域間連携と二次交通の確保、充実
- ③ 環境やアートなど豊岡ローカルの磨き上げ

1 成長市場であるインバウンドの宿泊誘客を重点的に取り組む

2 人口減少等による国内観光市場の縮小による影響を抑制する

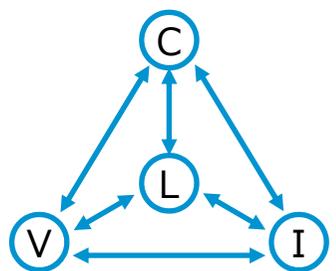
3 観光需要の平準化を図り、年間を通じた安定的な雇用を創出する

4 専門職大学との連携により人材の育成を図るとともに、待遇改善や働き方改革により人材を確保する

5 地消地産を進め、地域内調達率を高めることにより、市内の経済循環を促進する

取り組む大交流モデル

インバウンド誘客



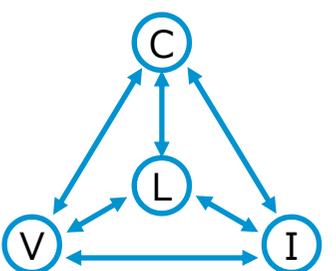
<豊岡のローカル>
歴史ある城崎温泉での文化体験

<期待される効果>
C:まち全体が一つの旅館として住民がおもてなし
V:日本の伝統的な温泉街を体験
I:持続的な労働力の確保

<具体的な取組例>

- ・ローカルを活用した体験型プログラムの開発
- ・閑散期への誘客の促進と労働環境の改善
- ・地域内産品を活用した高付加価値化
- ・キャッシュレス化の推進

ユニバーサルツーリズム



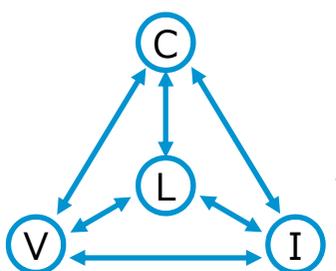
<豊岡のローカル>
多様性を受け入れる土壌や経験など

<期待される効果>
C:市民も豊岡観光を楽しむ、多様性を受け入れる
V:支障なく観光を楽しむ
I:ソフト・ハード両面の環境整備

<具体的な取組例>

- ・多様な文化や考え方を学ぶ機会の設定
- ・宿泊施設や温浴施設のバリアフリー化の推進
- ・サインや案内などの外国語表記や平易な表現
- ・「観光権」的な考え方の導入

長期滞在（延泊）化



<豊岡のローカル>
世界が憧れ共感する豊岡のローカル

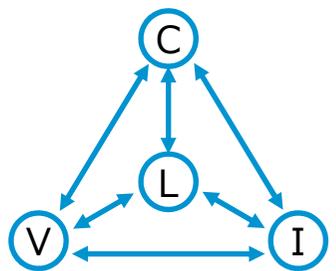
<期待される効果>
C:市民以外との日常的な交流
V:豊岡のローカルを満喫
I:専門的な人材の育成・確保、5GやAIなど先端技術を活用

<具体的な取組例>

- ・「演劇のまち・豊岡」の推進
- ・良質なナイトエンターテインメントの提供
- ・長期滞在対応の宿泊施設やシェアオフィスの確保
- ・ライドシェアなど新しい観光モビリティの導入

取り組む大交流モデル

コウノトリツーリズム



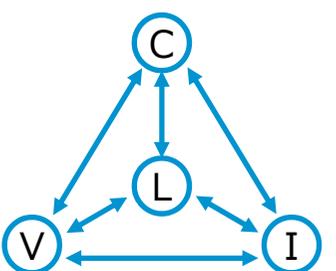
<豊岡のローカル>
コウノトリ野生復帰の取り組み

<期待される効果>
C:世界に誇る豊岡の取組みを語る
ことができる
V:豊岡の取組みへの共感から貢献へ
I:社会的な貢献活動

<具体的な取組例>

- ・野生復帰の取組みを世界に発信
- ・湿地保全活動を通じた市民との交流機会の創出
- ・企業のCSV活動の受け皿として商品化
- ・活動後は温泉で汗を流せるようパッケージ化

地場産業の観光資源化



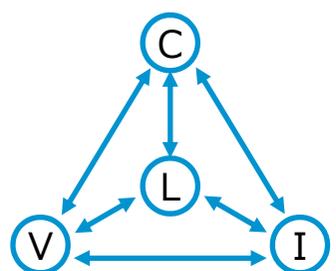
<豊岡のローカル>
豊岡靴やコウノトリ育むお米などの
地場産品

<期待される効果>
C:市民が豊岡の価値を再発見する
V:地場産品を求め豊岡へ、買物観光
I:新たなマーケットの開発

<具体的な取組例>

- ・地域ブランドのマーケティング強化
- ・工場や農園などでの体験、見学ツアーの検討
- ・地消地産の推進
- ・豊岡産品の市民利用の促進

スポーツツーリズム



<豊岡のローカル>
円山川や神鍋高原などの自然環境

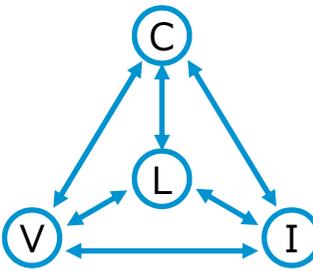
<期待される効果>
C:市民の風景風土の再発見
V:目の前の自然や景観を理解し楽し
む
I:地消地産、豊岡の名品をお土産に

<具体的な取組例>

- ・ランニングやサイクリングができる環境の整備
- ・ボート競技など世界レベルの大会の誘致
- ・大会ボランティアなど市民が支える仕組みの構築
- ・ジオパークの取組みの推進

取り組む大交流モデル

市民の市内観光の推進



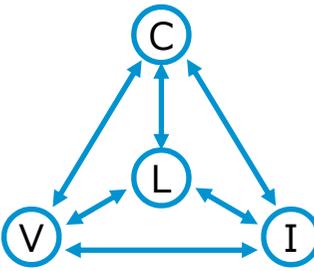
<豊岡のローカル>
市民が知らない豊岡のローカル

<期待される効果>
C:豊岡の良さやローカルの再発見
V:観光の自分ごと化
I:市民目線での評価や相互送客の促進

<具体的な取組例>

- ・市民の市内観光を支援する仕組みの検討
- ・観光従事者が市内他地域の観光地を学ぶ機会の設定
- ・季節や観光地ごとの労働力のシェアの促進
- ・「観光権」的な考え方の導入

日常の観光資源化



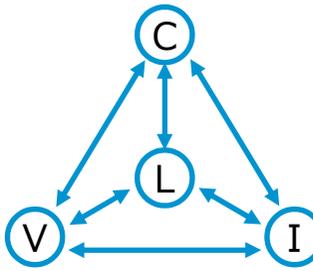
<豊岡のローカル>
豊岡の日常的な暮らしや楽しみ

<期待される効果>
C:日常的な生活や活動が誇りに
V:豊岡の豊かさを体験しファンに
I:1次産業の観光資源化

<具体的な取組例>

- ・城崎温泉ステキ体験旅行社やすいっち出石などの活動の支援
- ・但東地域の農家民泊や竹野地域の海町マーケットの推進
- ・植村直己のチャレンジ精神の継承

MICE（会議・研修・学会・展示会・イベント等）



<豊岡のローカル>
歴史や文化、自然及び関連した豊岡のユニークベニュー※

<期待される効果>
C:多様な人が憧れる豊岡の価値を再認識
V:インスパイアされる風土や文化
I:平日の宿泊者増、長期滞在化

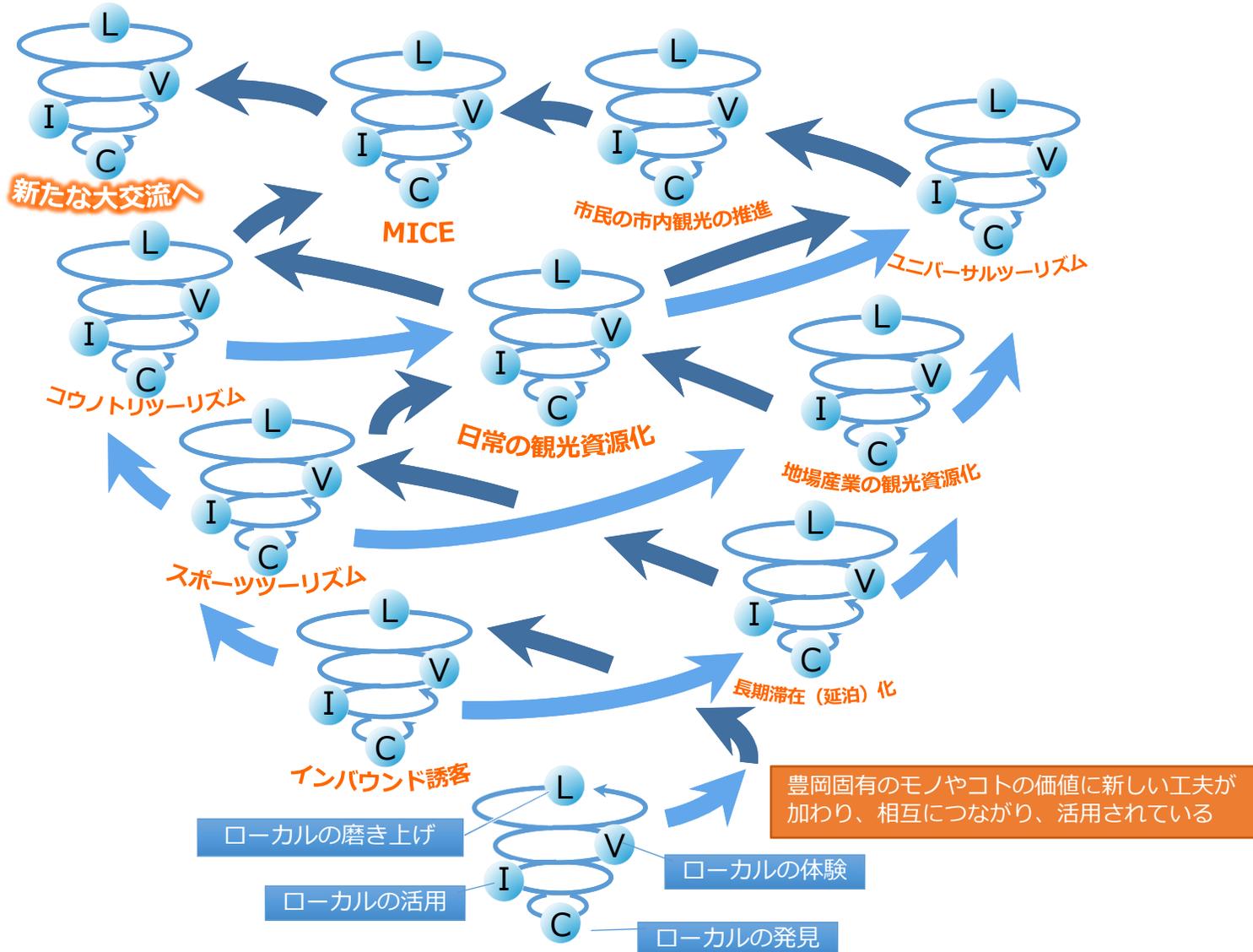
<具体的な取組例>

- ・会議施設・宿泊・交通等が連携した受入スキームの整備
- ・自然保護関連の学会誘致や国際演劇祭の開催
- ・グローバルMICE都市（京都等）と連携した小旅行の実施

※ 会議やレセプション開催時に、歴史的建造物や公的空間等で特別感や地域特性を演出できる会場

地域全体の大交流モデル

- 小さな大交流が相互に作用し、大きな渦となり地域全体にイノベーションが起こっている。





大交流ビジョン

- 豊岡市大交流ビジョンの策定と共有。
- 解決すべき課題と対応策を設定。
- 目標と推進体制の検討。

解決すべき課題	Community	<ul style="list-style-type: none"> ① 市民が豊岡観光を楽しめていない ② 市民全員がおもてなしに取り組む土壌ができていない ③ 市民が観光による豊かさを感じられていない
	Industry	<ul style="list-style-type: none"> ① 幅広い産業が観光産業に関わっていない ② 地消地産が進まない、ローカルを活用できていない ③ 観光産業の働き手の確保が困難となっている
	Visitor	<ul style="list-style-type: none"> ① 豊岡ブランドが知られていない ② 市内の観光地が点存し相互に連携できていないため、回遊できていない ③ 豊岡のローカルの魅力を満喫できていない

掛け合わせる対応策

アクションプラン

- 2019年度に大交流ビジョンに基づき具体的な事業を検討。アクションプランを策定。
- 2020年度からアクションプランに基づく事業を展開。実施状況を踏まえて2024年度にプランを見直し、2030年度のビジョン実現を目指す。



ありたい姿

大交流を通じて豊岡にイノベーションが起きる

小さな世界都市 Local & Global City

1

前回までの議論の確認
(全体像、取組み方針と取り組む大交流モデル、推進体制)

2

本日議論いただく内容 (①推進体制及び活動領域)

3

本日議論いただく内容 (②目標設定)

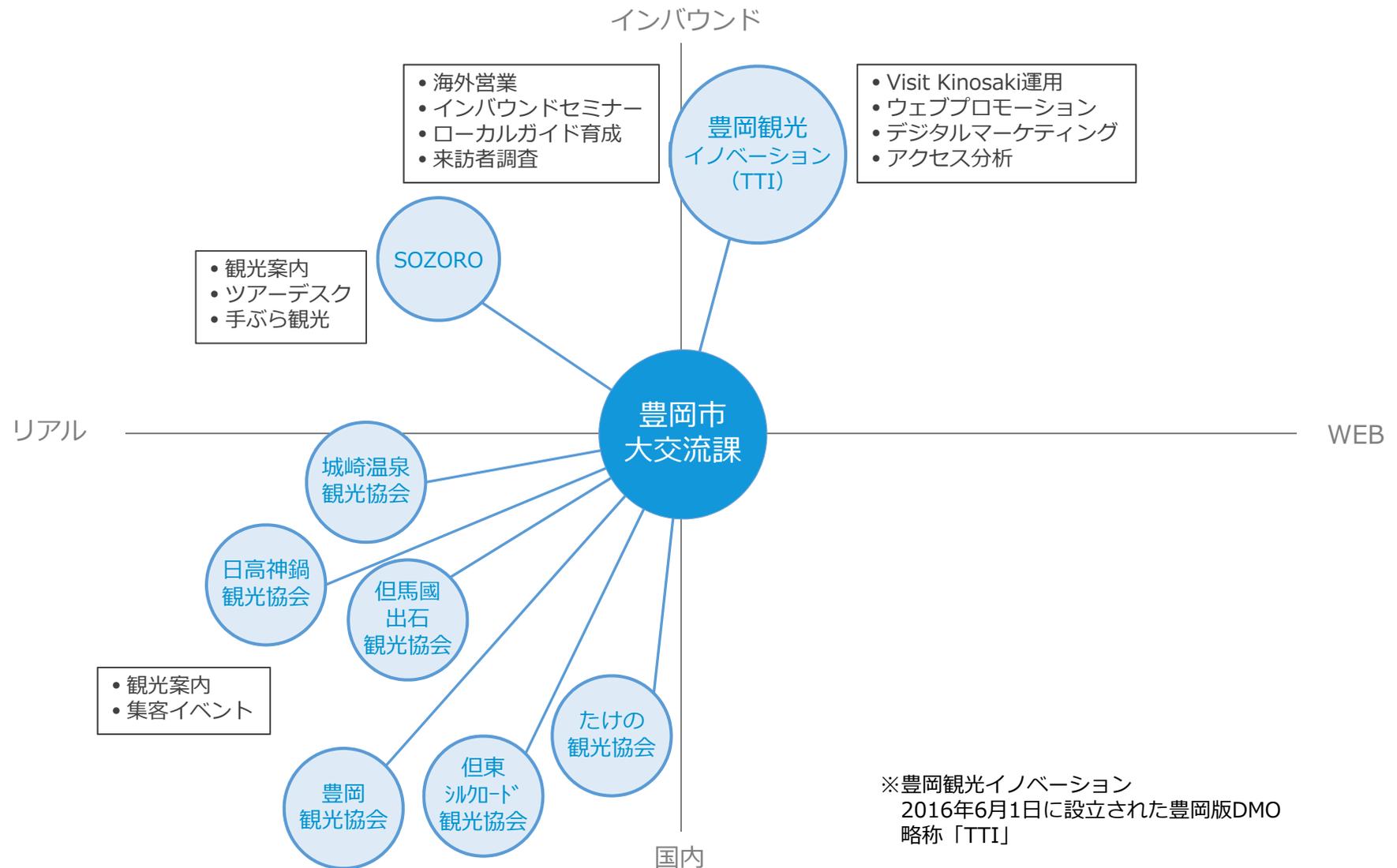
4

本日議論いただく内容 (③観光振興財源)

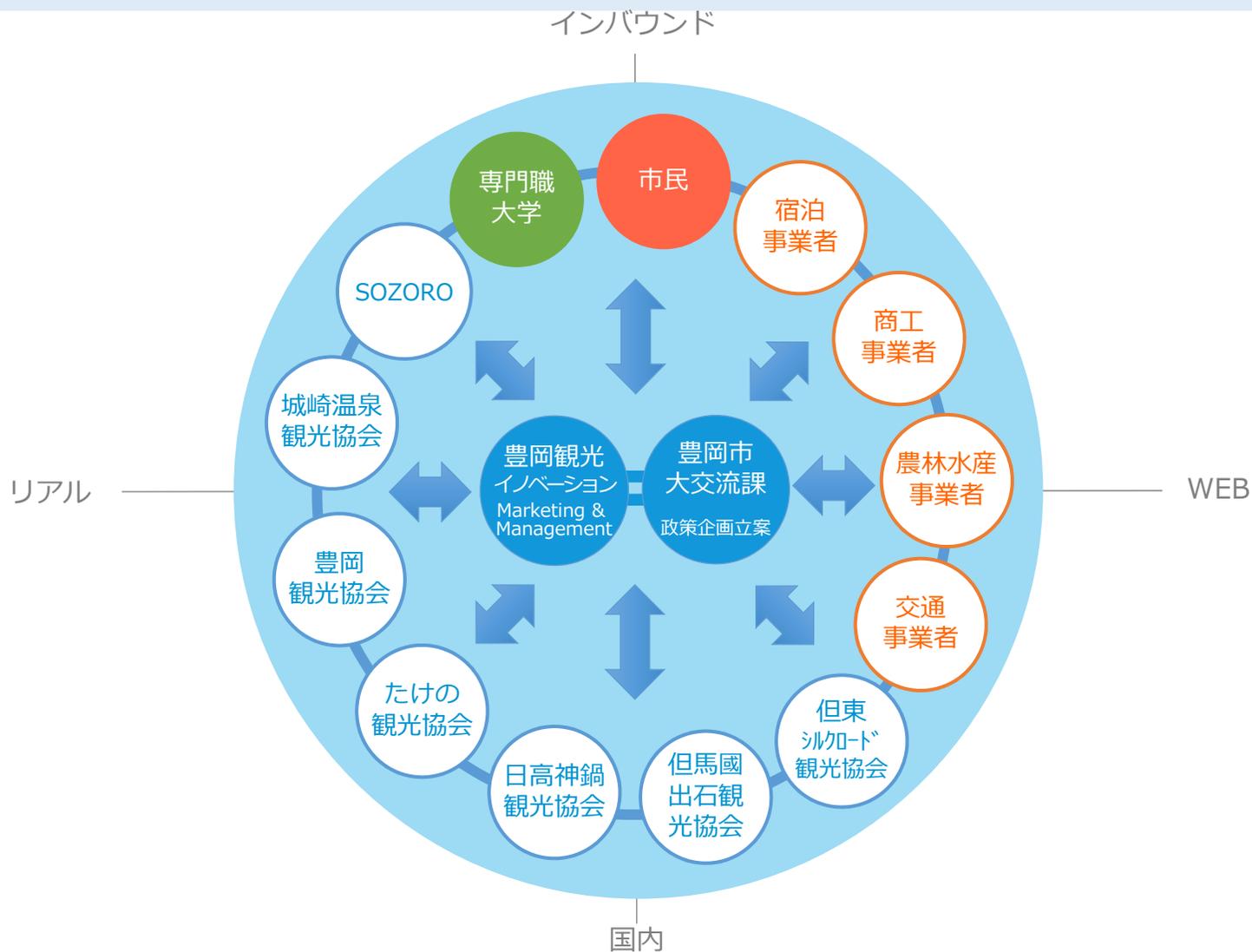
5

本日議論いただく内容 (④ビジョン素案)

- これまでの観光施策は、以下のような体制と活動領域（イメージ）で取り組んできた。



- TTIと各観光協会の機能分担や将来的な組織のあり方についても検討する。
- これからは、TTIを中心に幅広い産業や団体と相互に連携しながら広義の観光に取り組む必要がある。



- TTIと豊岡市役所がファシリテーターとなって民間事業者や市民などの多様なアイデアやそれぞれの強みを引き出して、豊岡のローカルを来訪者に伝わる価値に変換する。

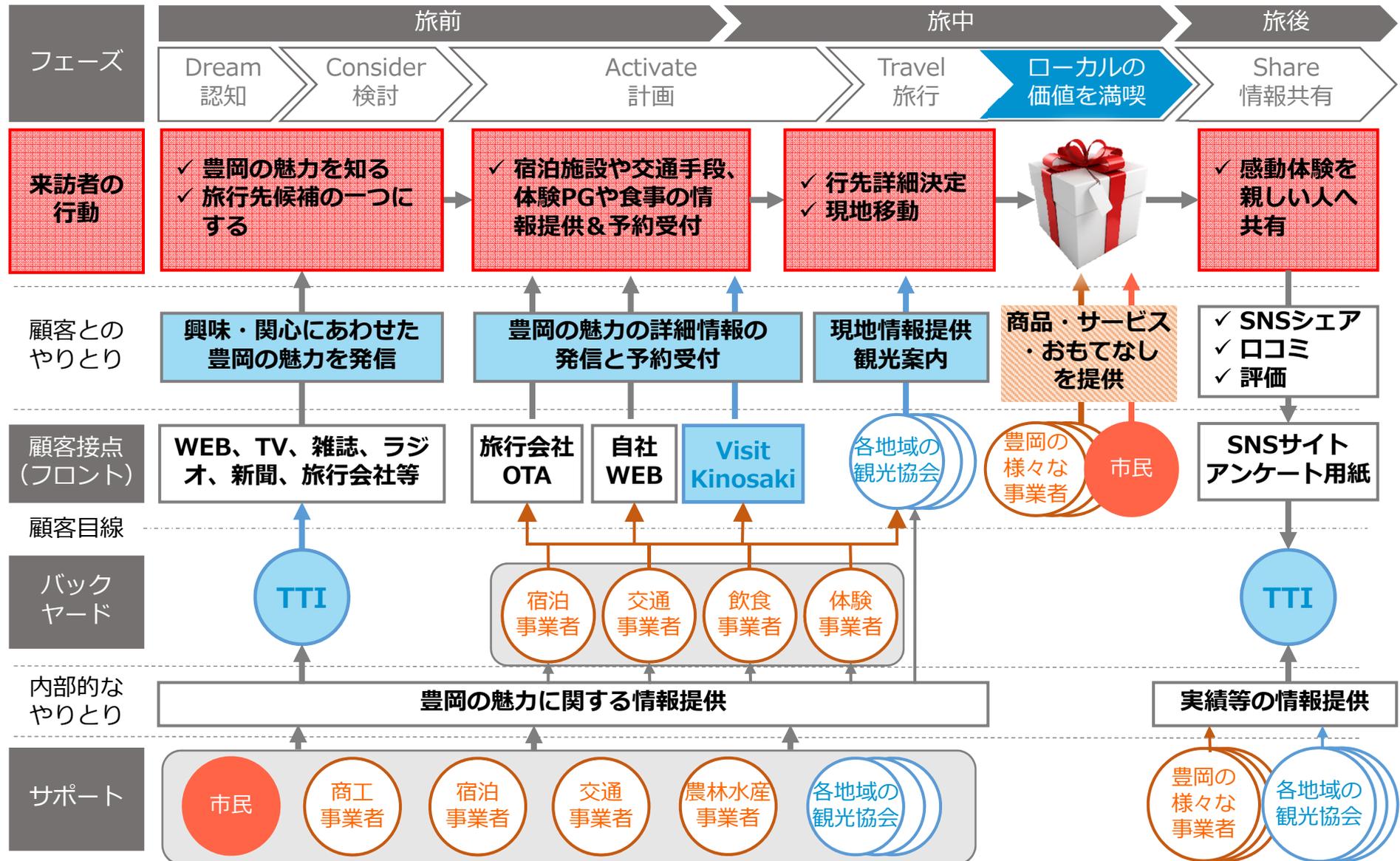


(参考) アウトプットのイメージ

テーマ	インバウンド誘客	コウノトリツーリズムを生かしたMICE	
ターゲット	欧米豪の 個人旅行者 	生物・環境 保護学会 + 企業のCSR 担当 	
提供価値	ローカルを活用した体験プログラム (食+交通+アクティビティ等)	会議の場所/宿泊施設/生物・環境保護に関連 した食や体験(湿地保全活動)/活動後の温泉	
連携 主体	    	    	
提供手段	旅前	 WEBや旅行博、空港や駅等におけるプロモーション	 学会や展示会、旅行代理店の法人営業部隊等における営業活動
	旅中	 豊岡での体験プログラム予約受付	  参加者の分宿の調整や宿～会場～体験PG等の移動手段調整での連携
		 ローカルを活用した体験プログラムの提供	 生物・環境保護に関連した食や体験(湿地保全活動)の提供

組織間連携のイメージ (②価値の提供)

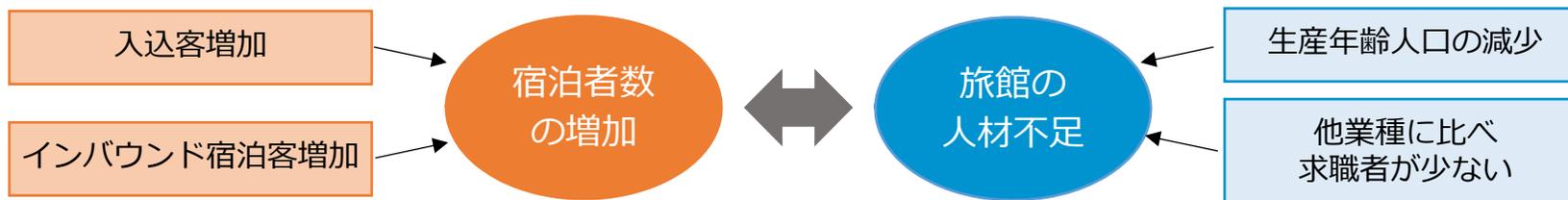
- 関係者が連携しながら、来訪者の行動フェーズにあわせて最適なタイミング・手段で情報を届け、豊岡のローカルの価値を提供する場まで誘う。



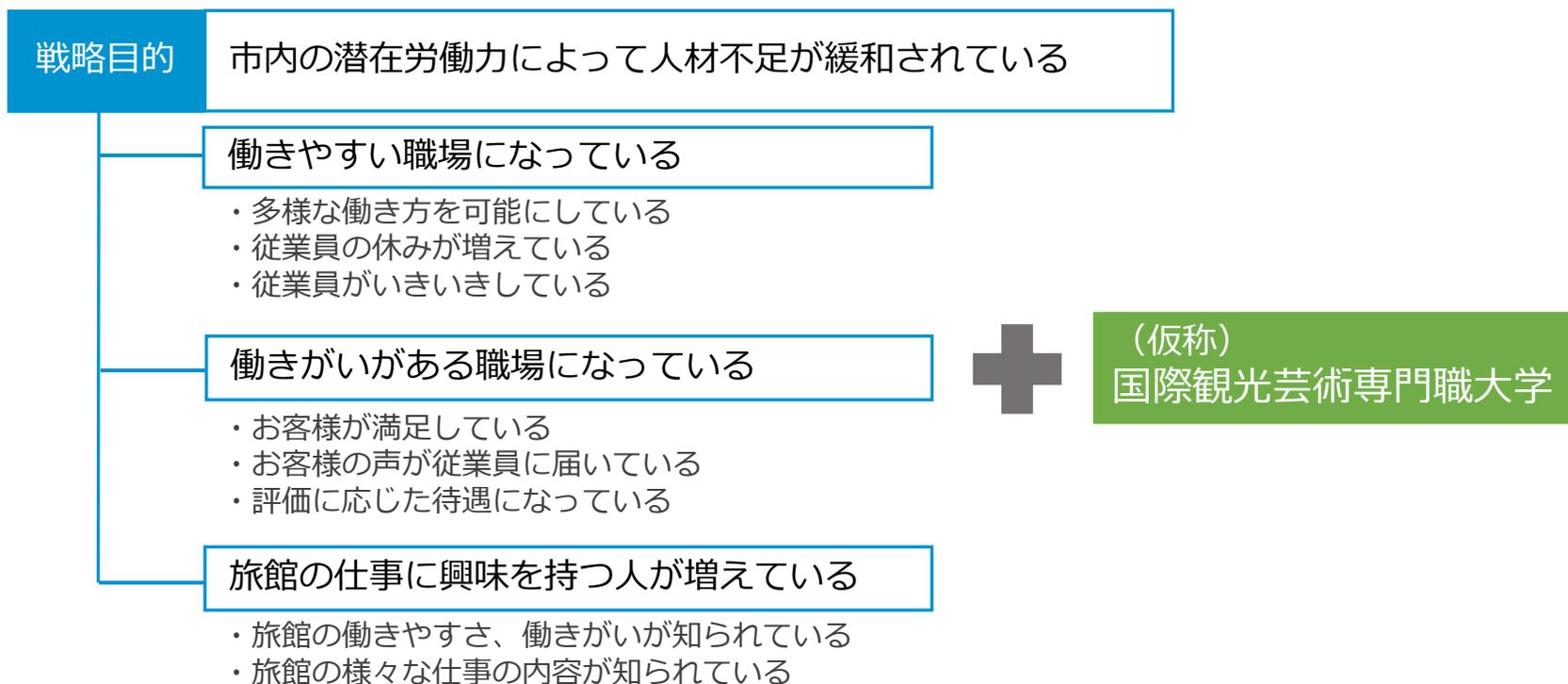
- TTIと豊岡市役所がファシリテーターとなって、提供実績に基づくデータや民間事業者、市民などのアイデアを基に、更なる価値の向上策を検討し、次につなげる。



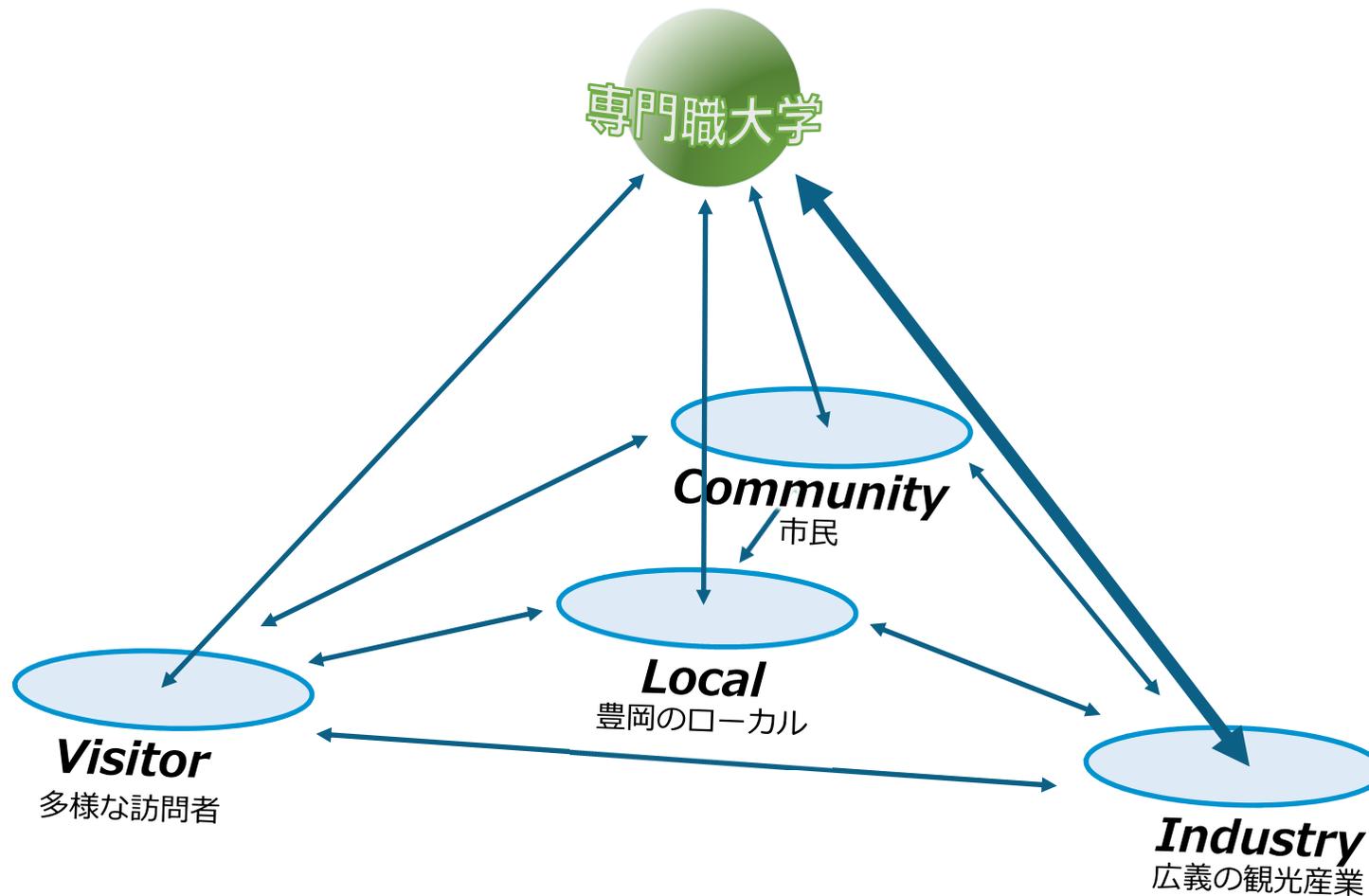
- 観光産業における人材不足を解消するため、「豊岡市潜在労働力活用戦略（H29.11策定）」を実行する。
- 2021年開学予定の県立専門職大学と連携する。



豊岡市潜在労働力活用戦略（抜粋）



- 2021年開学予定の県立専門職大学は、文化（芸術）と観光の親和性に着目したコース設定が想定されており、大交流モデルの新たなステークホルダーとしての役割を果たすことが期待されている。



1

前回までの議論の確認

(全体像、取組み方針と取り組む大交流モデル、推進体制)

2

本日議論いただく内容 (①推進体制及び活動領域)

3

本日議論いただく内容 (②目標設定)

4

本日議論いただく内容 (③観光振興財源)

5

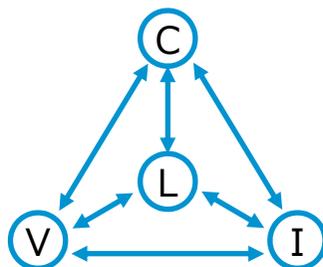
本日議論いただく内容 (④ビジョン素案)

小さな世界都市
Local & Global City

人口規模は小さくても、ローカルであること、地域固有であることを通じて世界の人々から尊敬され、尊重されるまち

大交流を通じて
豊岡にイノベーションが
起きている

イノベーションから生まれるポジティブな反応



主観的

- ・誇り
- ・憧れ
- ・おもてなし
- ・共感

経済的

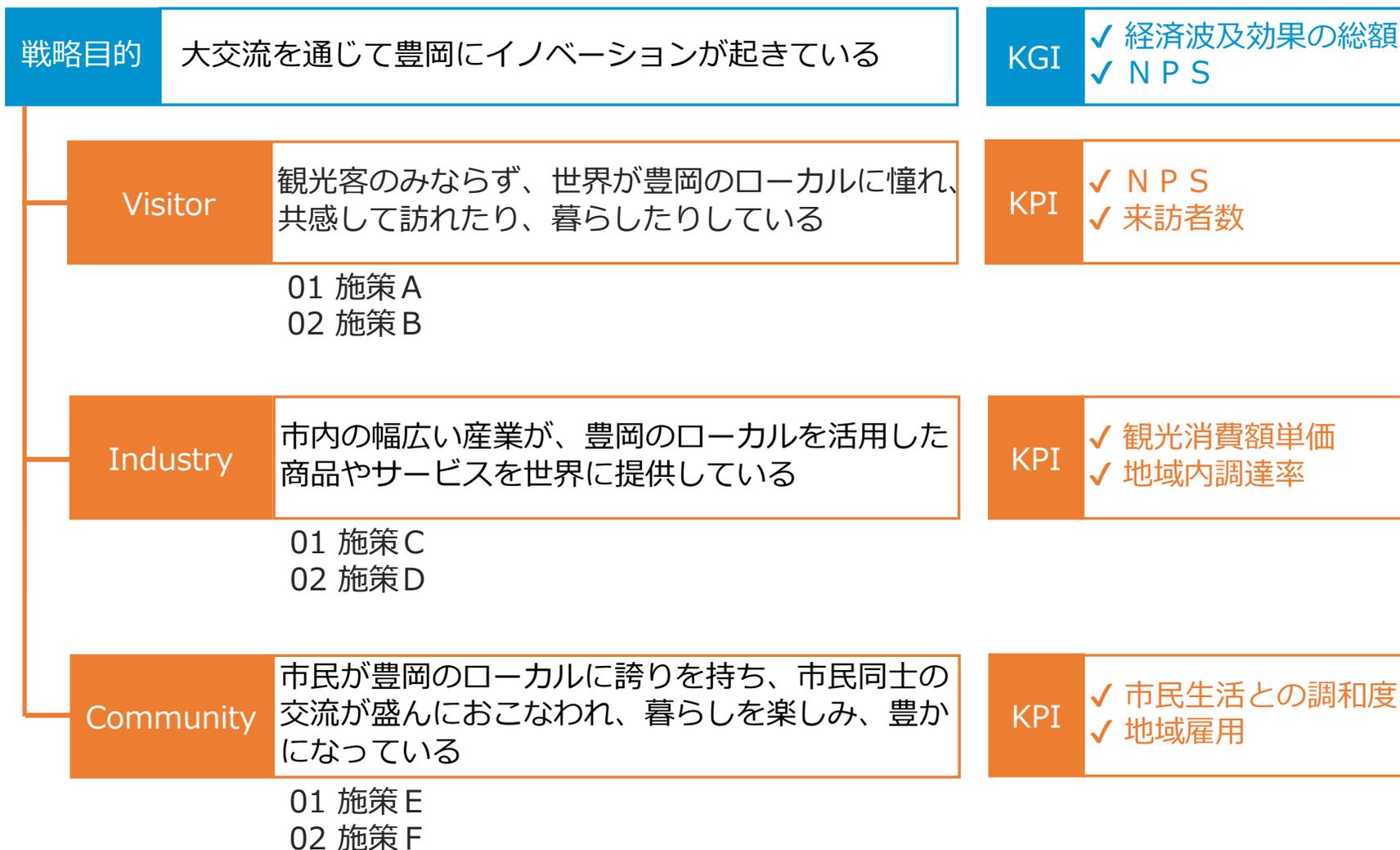
- ・地域雇用
- ・利益
- ・うるおい

KGIに必要な要素

- ✓ 世界からの尊敬度合いを評価できる指標が必要
- ✓ イノベーションの度合いを測るには、主観的な評価指標と経済的な評価指標での目標管理が有効
- ✓ 経済的指標は、ひたすら成長を目指すのではなく、小さな世界都市に適した目標が必要

測定対象		KGI	測定方法
主観的指標	尊敬度合、誇り、おもてなし、憧れ、共感	NPS（ネットプロモータースコア） 豊岡市をどのくらい人に推奨したいかを測る指標	来訪者アンケート
経済的指標	地域雇用、利益、うるおい	観光産業による経済波及効果総額 豊岡市来訪者による観光消費額も含めた経済波及効果がどのくらいあったかを測る指標	来訪者アンケート 訪問聞き取り調査

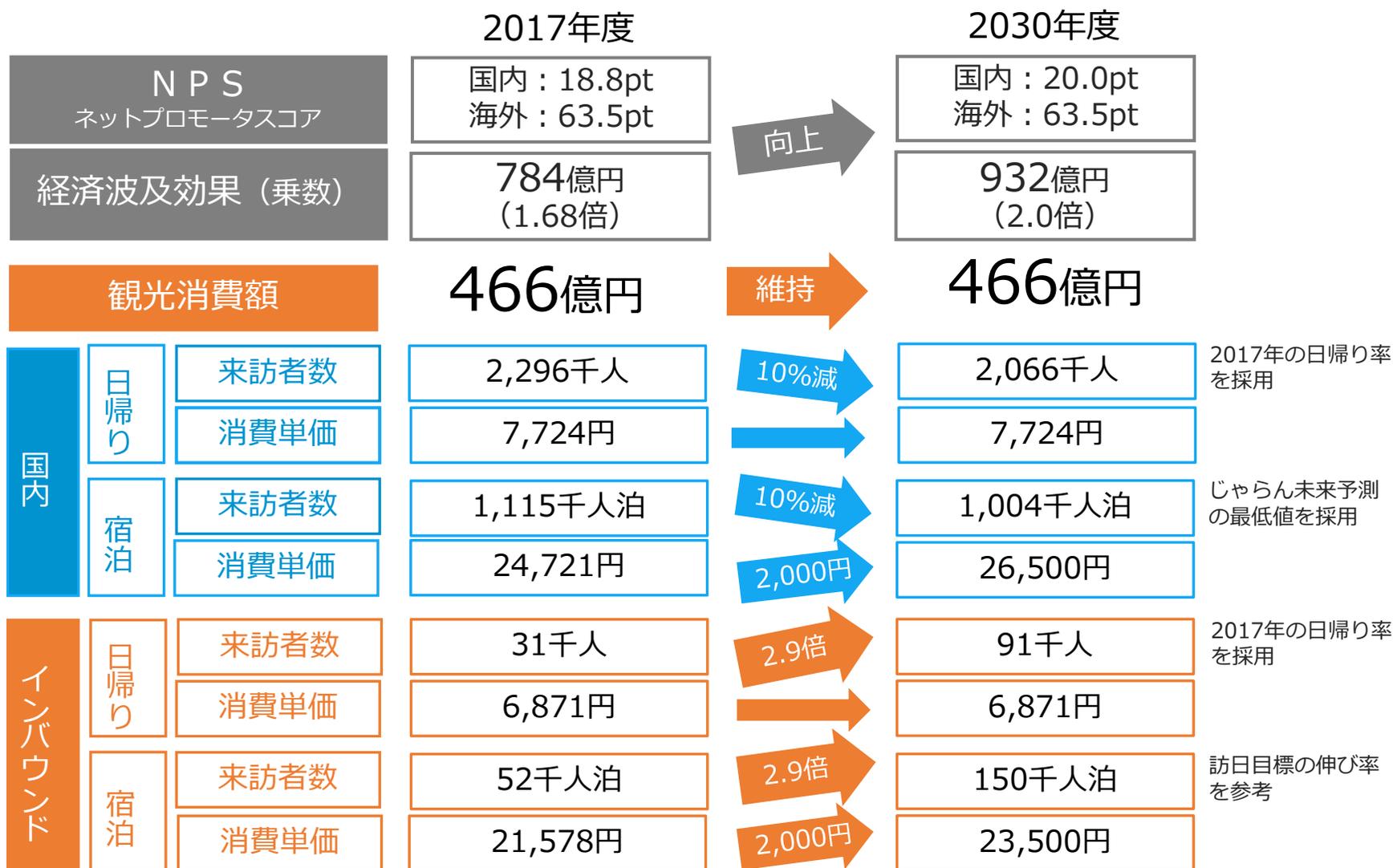
小さな世界都市 Local & Global City



【前回資料】 目標数値（案）

基本的な考え方

2017年度と同程度に観光消費額を確保するため、人口減少等による国内旅行市場の縮小を抑えつつ、インバウンドの人泊数の増加と消費単価の向上を図る。



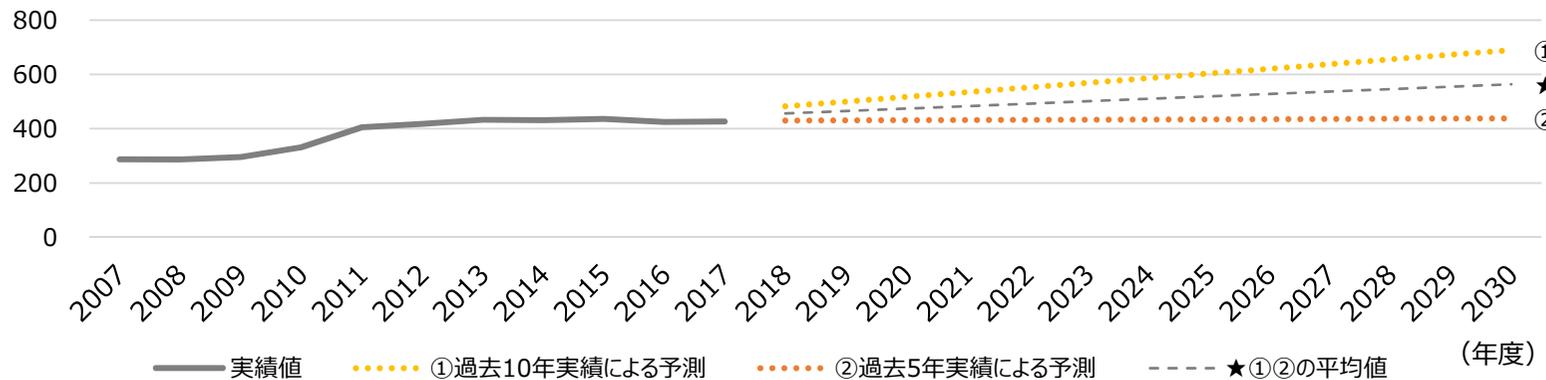
豊岡市宿泊者数のトレンド予測（国内）①

- 全国の国内延べ宿泊者数は長期的には増加傾向だが、中期的には横ばい傾向。
- 豊岡市では、2010年度を底に2014年度まで上昇。中長期的には微増傾向。

(百万人泊)

【全国】国内延べ宿泊者数予測

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成



① 2030年度
690百万人泊
〔2017年度対比〕
+63%

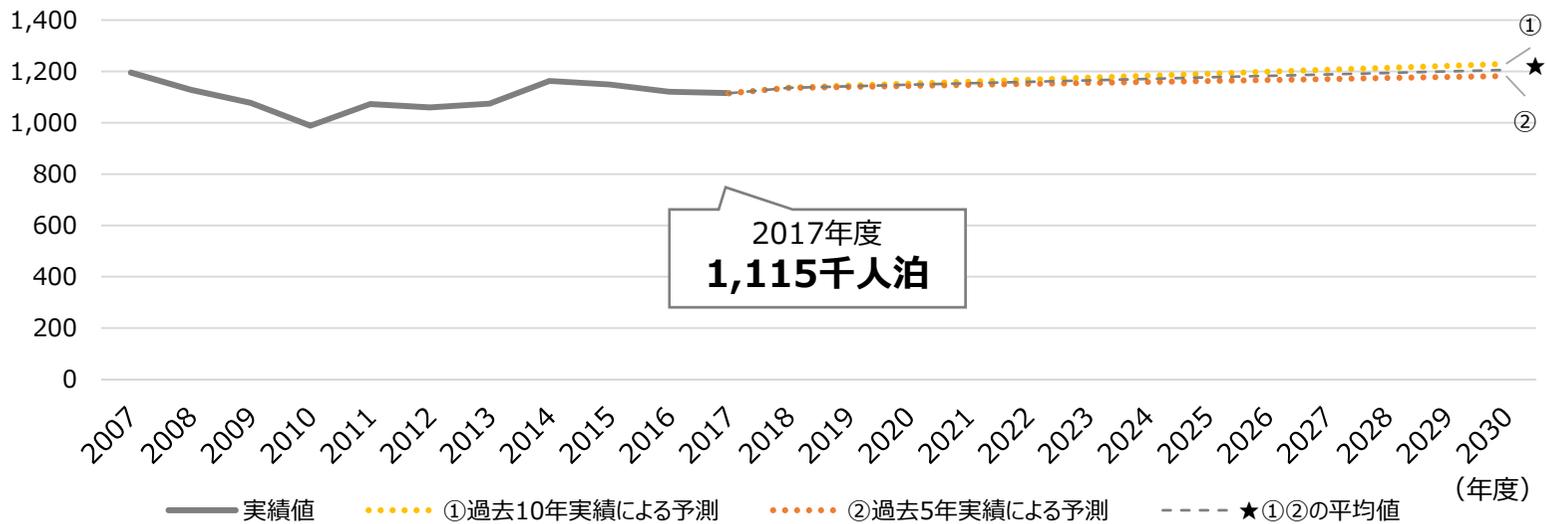
★ 2030年度
564百万人泊
〔2017年度対比〕
+32%

② 2030年度
438百万人泊
〔2017年度対比〕
+3%

(千人泊)

【豊岡市】国内延べ宿泊者数予測

出典：豊岡市大交流課調べ

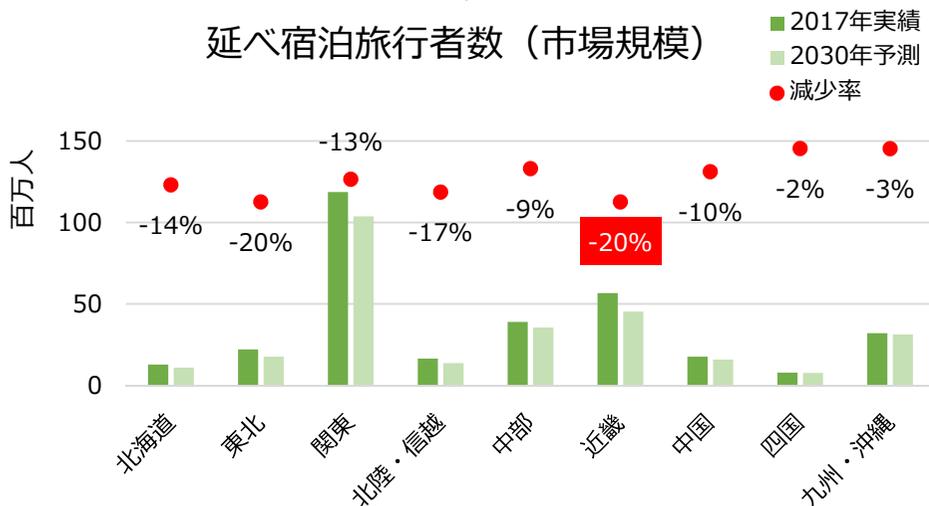
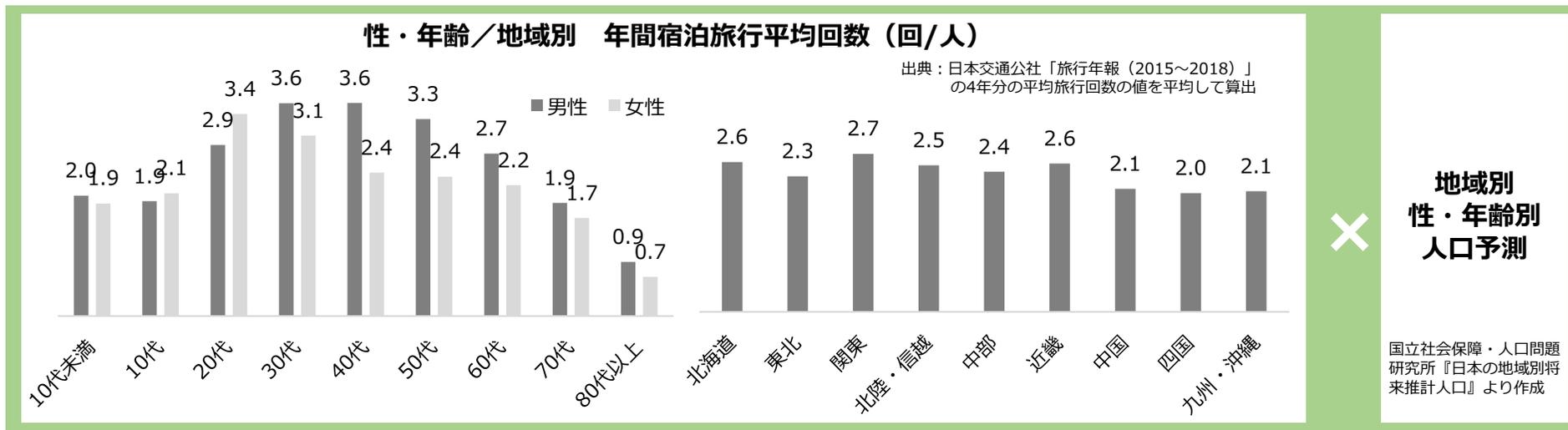


① 予測A（上位）
2030年度
1,230千人泊
〔2017年度対比〕
+10%

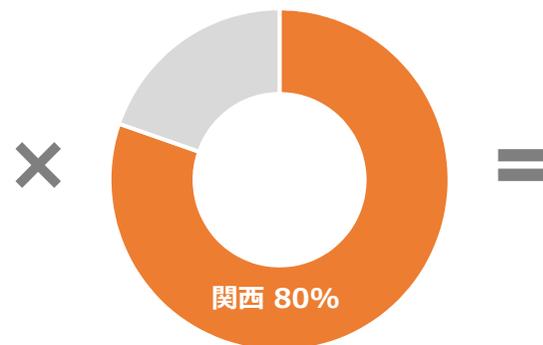
★ 2030年度
1,206千人泊
〔2017年度対比〕
+8%

② 2030年度
1,182千人泊
〔2017年度対比〕
+6%

- 宿泊旅行者数は経済要因も影響するため、居住地域や性・年齢によって1人当たりの宿泊旅行回数は異なる。
- 地域/性・年齢別の人口予測を加味すると、延べ宿泊旅行者数（市場規模）は地域によって減少率が異なる。
- 豊岡市への来訪者は8割が近畿圏からであるため、現状の発地別割合のままでは更なる減少（▲18%）が予想される。



豊岡市来訪者の発地別集計



予測B（下位）

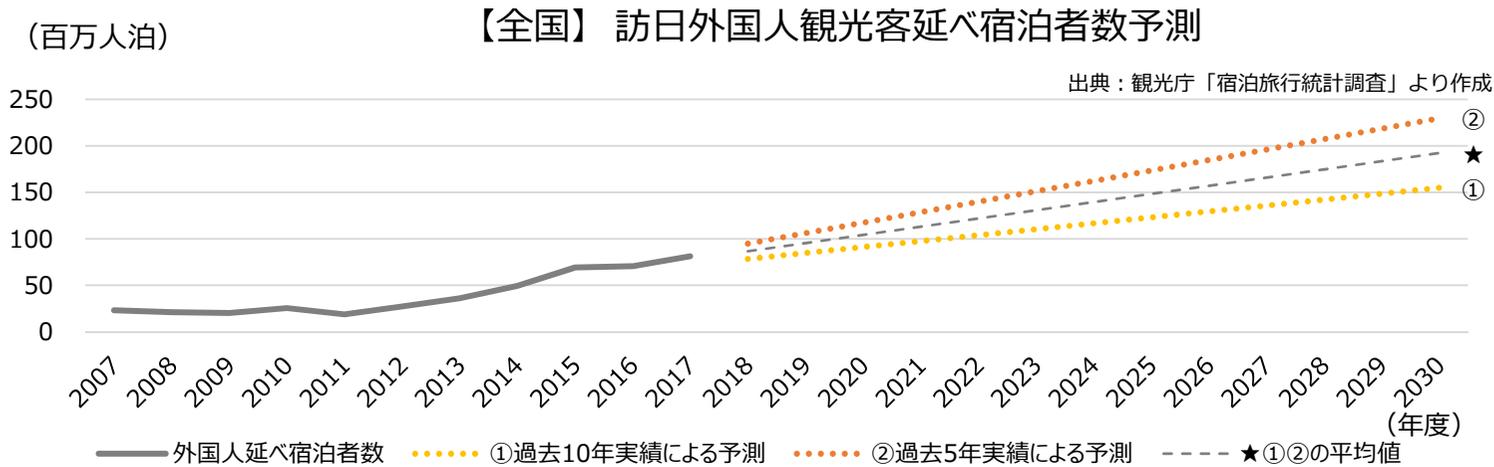
2030年度
911千人泊

〔 2017年度対比 〕
▲18%

出典：豊岡市大交流課調べ

豊岡市宿泊者数のトレンド予測（インバウンド）

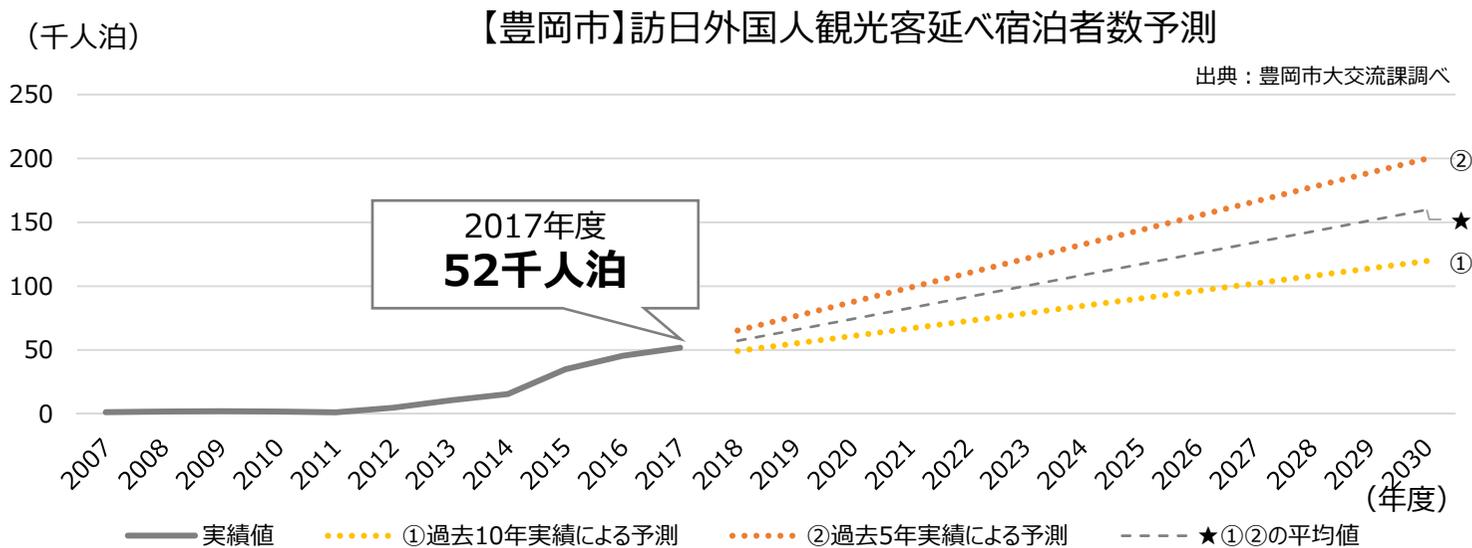
- 豊岡市の訪日外国人観光客延べ宿泊者数は長期的に増加傾向。（①）
- 2014年から2015年に急上昇したため中期的には20万人泊に達する予測もできる。（②）



② 2030年度
230万人泊
〔2017年度対比〕
2.8倍

★ 2030年度
192万人泊
〔2017年度対比〕
2.4倍

① 2030年度
155万人泊
〔2017年度対比〕
1.9倍



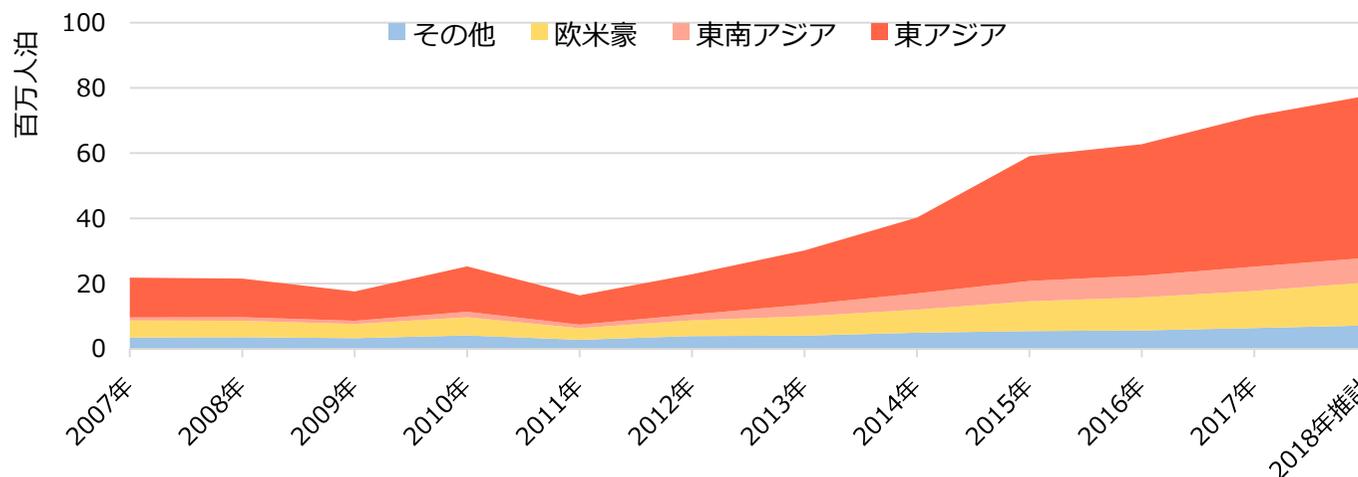
② 予測A（上位）
2030年度
200千人泊
〔2017年度対比〕
3.9倍

★ 2030年度
160千人泊
〔2017年度対比〕
3.1倍

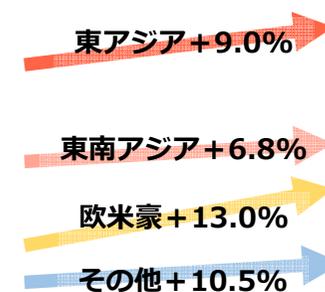
① 予測B（下位）
2030年度
120千人泊
〔2017年度対比〕
2.3倍

- 豊岡市は欧米豪誘客に注力して成長している（+10.8%）が、国内市場全体の成長率（+13.0%）と比べると伸びが弱い。
 - 全国的には欧米豪よりも東アジアの数が圧倒的に多い。豊岡市は東南アジアの誘客が伸びているものの、近年、東アジアの取り込みが鈍化している。
- ⇒ **欧米豪の他、東アジアや東南アジアからの誘客にも注力することにより訪日外国人観光客延べ宿泊者数を増やせる余地がある。**

【全国】 出身国エリアごとの訪日外国人観光客延べ宿泊者数の推移

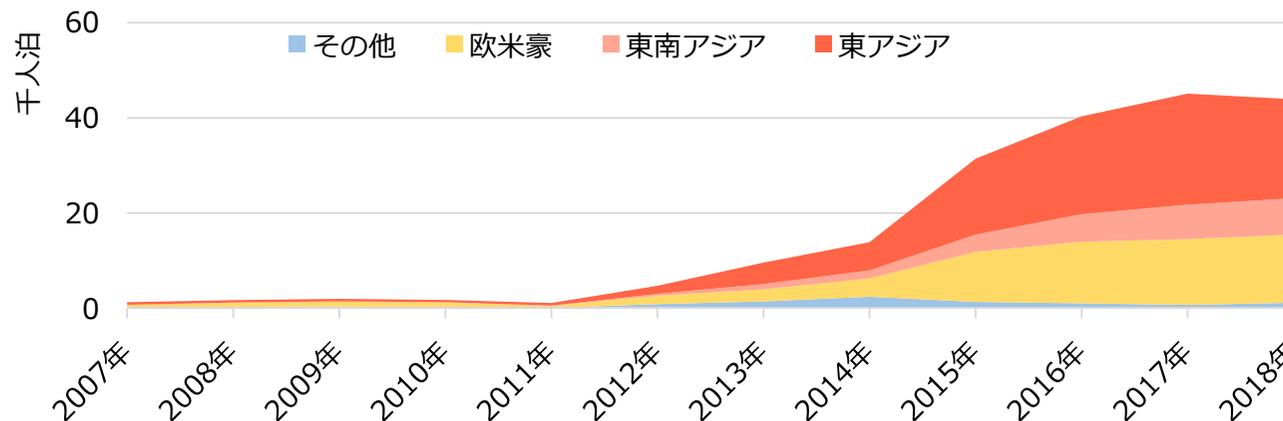


3年平均成長率

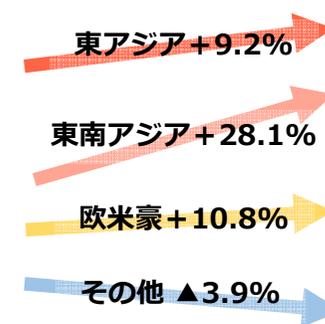


出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」より国籍別に延べ宿泊者数の合計を算出して作成

【城崎地域】 出身国エリアごとの訪日外国人観光客延べ宿泊者数の推移



3年平均成長率

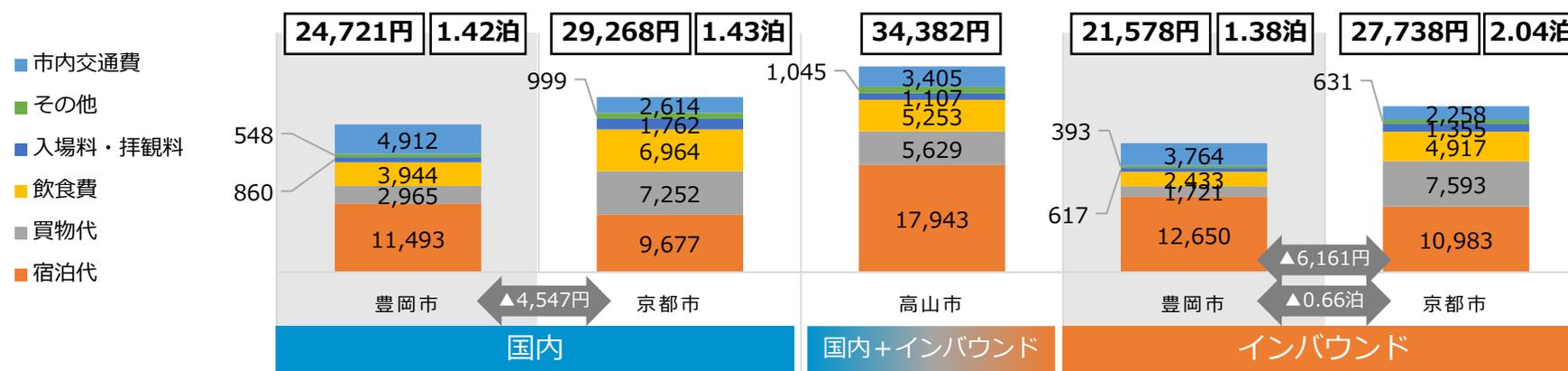


出典：豊岡市大交流課調べ

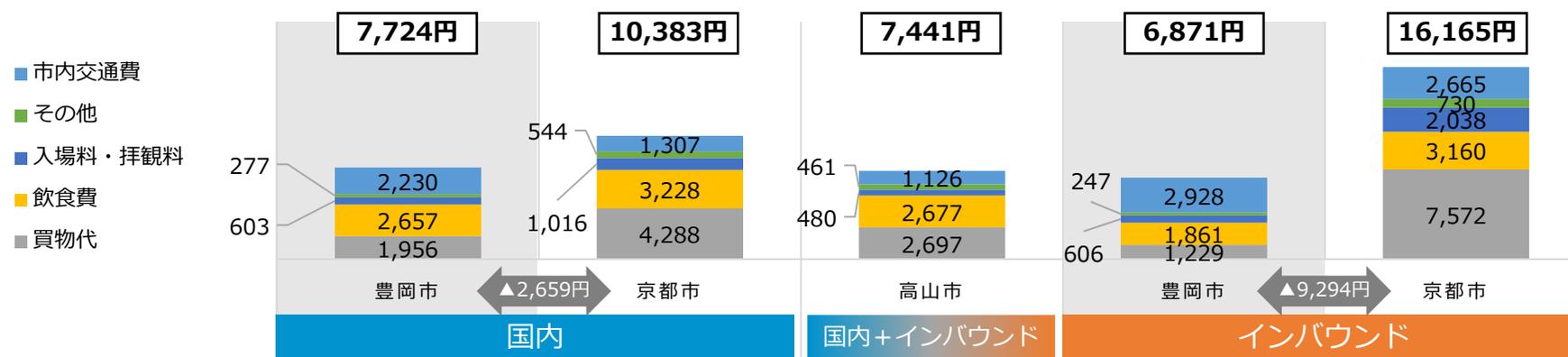
- 欧米豪のインバウンドが比較的多い京都市、高山市と比較すると、豊岡市の平均単価は低い。
- 特に、買物代や飲食費の差が大きく、豊岡市にはまだ単価を上げる余地があると見込まれる。

宿泊観光客消費額単価比較（円/人泊）

※豊岡市と京都市は平均泊数も併記



日帰り観光客消費額単価比較（円/人）

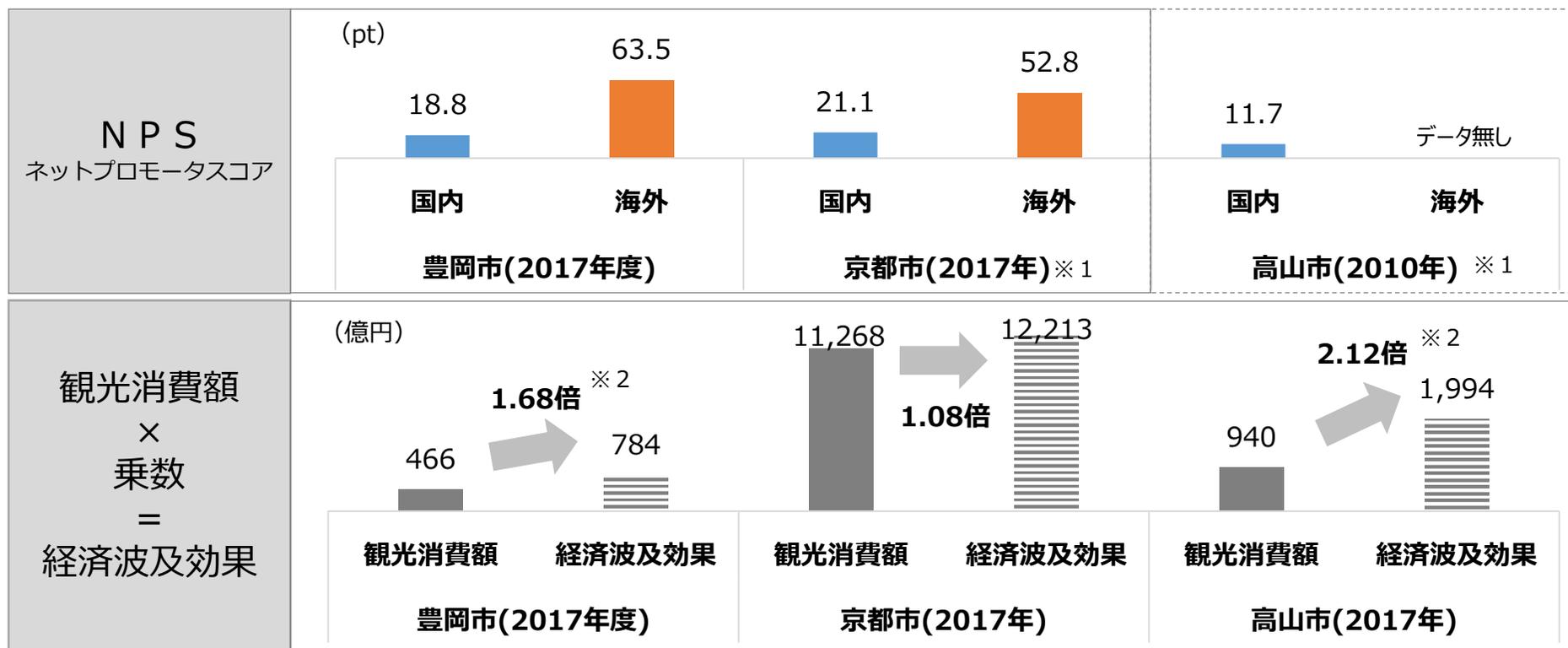


出典：京都市「京都観光総合調査（2017年）」より作成。京都市の単価は実人数ベースで算出されているため、平均宿泊日数で割ることで一人1泊あたりの平均単価に換算。
 出典：高山市「観光統計（2017年）」「観光の経済波及効果推計実施報告書（2017年）」より作成。

観光消費額以外の目標値（案）



（参考）他の観光地との比較



※1：京都市及び高山市のNPSの計算には、7段階の照会意向アンケートを基に、「7（最高値）＝推奨者、1～5＝批判者」として算出。

※2：経済産業省「観光経済波及効果簡易推計システム」にて推計。なお、他地域との比較において、豊岡市は「宿泊サービス」「飲食サービス」「文化サービス/スポーツ・娯楽サービス」「小売」の4項目にて波及効果を推計しているため「旅客輸送サービス」等の波及効果が含まれていない点に留意。

出典：京都市「京都観光総合調査（2017年）」より作成。高山市「観光統計（2017年）」「観光の経済波及効果推計実施報告書（2017年）」観光庁「観光客満足度調査 地域別集計結果（2010年）」より作成。

1

前回までの議論の確認

(全体像、取組み方針と取り組む大交流モデル、推進体制)

2

本日議論いただく内容 (①推進体制及び活動領域)

3

本日議論いただく内容 (②目標設定)

4

本日議論いただく内容 (③観光振興財源)

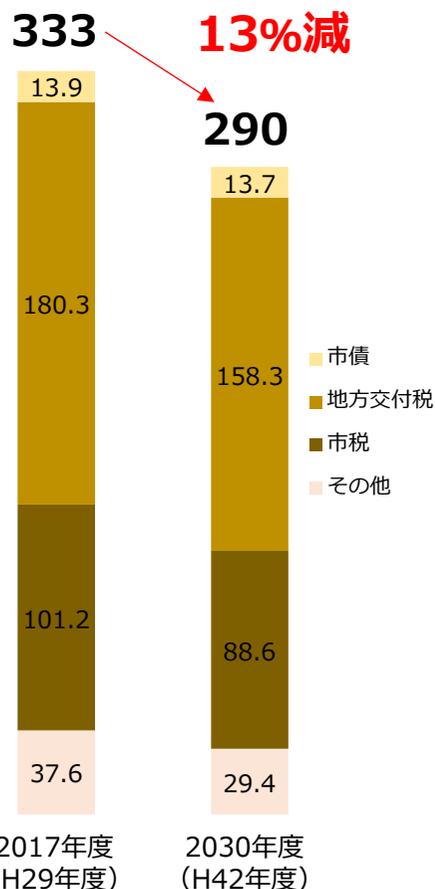
5

本日議論いただく内容 (④ビジョン素案)

- 2030年度までに豊岡市の歳入総額は約13%（約43億円）減少する見通し。
- 2018年度の観光関連事業費のうち約3分の1を国や県の交付金を活用。これらは今後無くなる見通し。

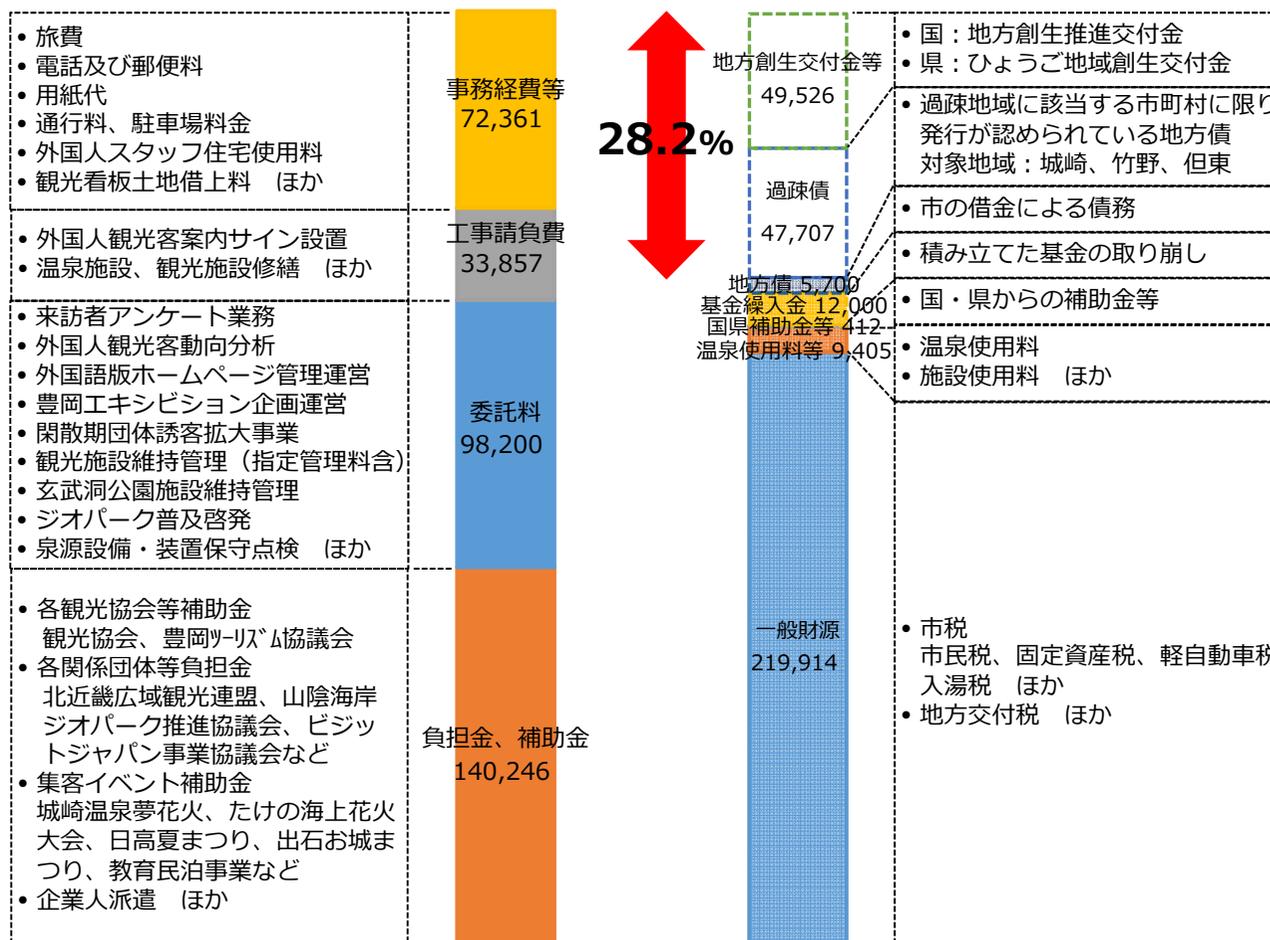
豊岡市歳入総額の長期見通し

(単位：億円)



出典) 豊岡市長期財政見通し「一般財源における歳入の見通し(H30.8)」から算出
2017年度：財政調整基金からの繰入金(70億円)除く

豊岡市の2018年度 (H30年度) 観光関連事業費 (3.45億円) の内訳

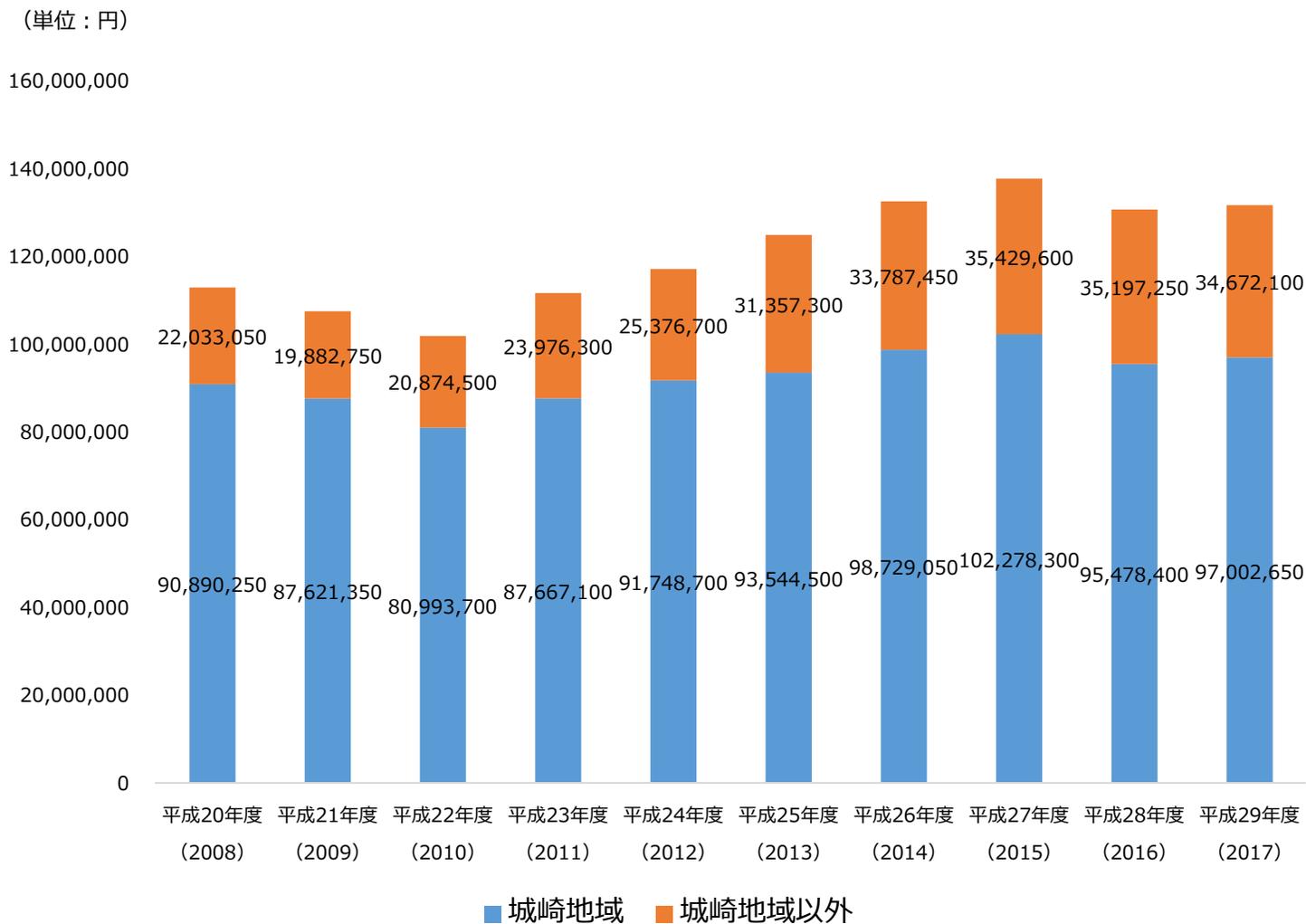


(単位：千円)

出典：豊岡市予算(当初予算ベース)：大交流課所管分(城崎国際アートセンター及び観光文化戦略室関係予算除く)と各振興局観光関連事業費(振興局プロジェクト含む)から算出

年度別入湯税額の推移

- 豊岡市における入湯税収入は微増傾向にあり、2017年度は約1億3,000万円である。
- 2017年度の入湯税収入の地域別比率は、城崎地域が市全体の約73.7%を占めている。



✓ 入湯税とは

- ・ 鉱泉浴場（温泉を利用した浴場）に入湯した場合に課税する税金
- ・ 目的税であり、環境衛生施設、鉱泉源保護管理施設や消防施設などの整備、観光振興に要する費用などに使用

✓ 課税の判断

- ・ 宿泊者は1泊につき、日帰り客は1日につき課税

✓ 税額

- ・ 1人1日につき150円（学生：50円）
- ・ 日帰り客は利用料金が1人につき1,000円を超える（消費税含む）場合

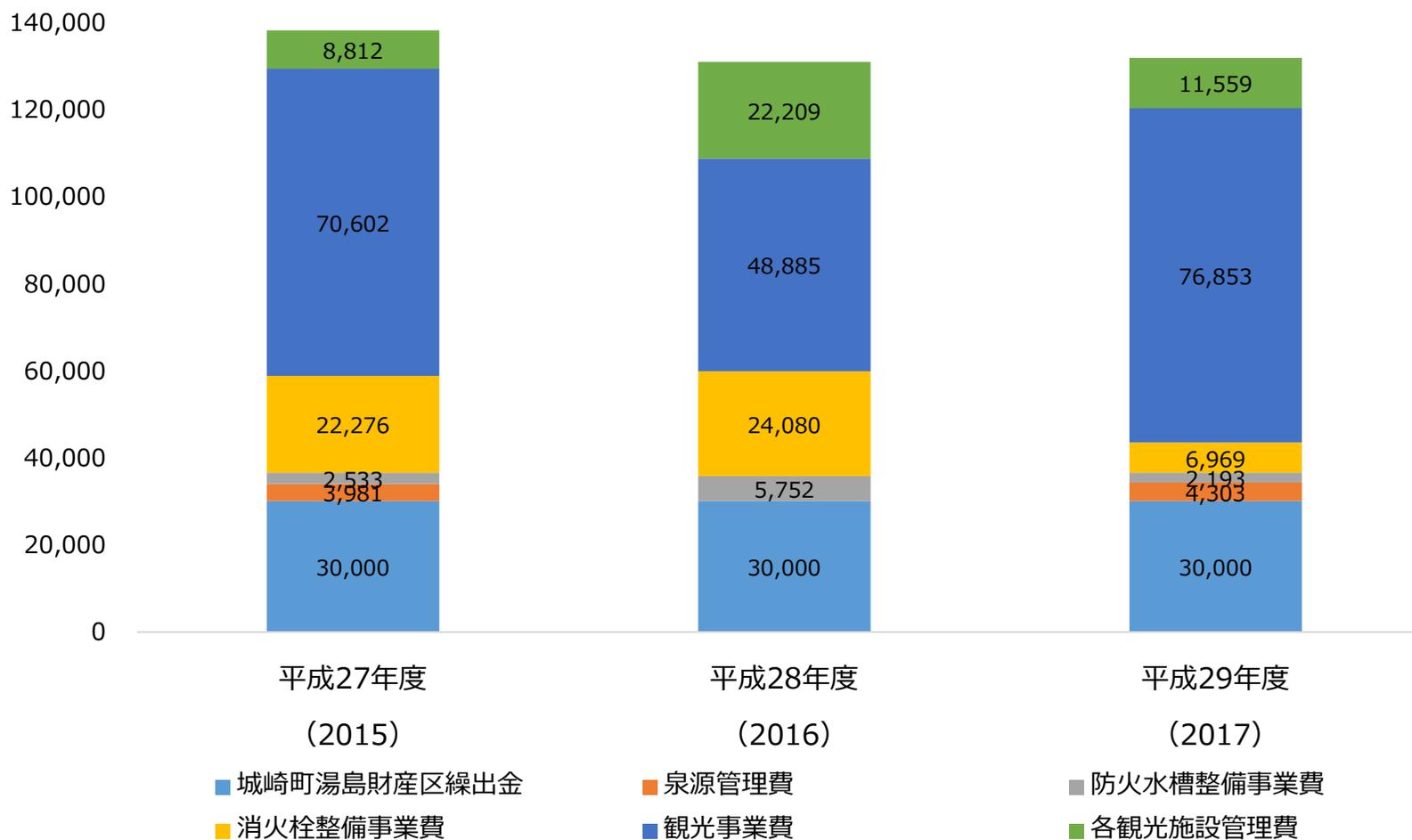
✓ 課税免除

- ・ 年齢12歳未満の方
- ・ 共同浴場又は一般公衆浴場に入湯する方
- ・ 日帰り客で、その利用料金が1人につき1,000円以下（消費税含む）の方

出典：豊岡市税務課調べ（税額は現年分のみ）

入湯税の使途状況（充当先）

- 入湯税収入のうち、毎年30,000千円を城崎町湯島財産区への繰出金に充当している。
- 2017年度の入湯税収入の約67%を観光事業並びに観光施設管理に充当している。



観光振興の安定的な財源確保のため、様々な地域において入湯税や宿泊税などが導入されている。

賦課対象	種別	名称	特徴	主な事例と税収額	
来訪者	法定税	入湯税 (超過課税)	<p>超過課税として導入し、引き上げた分を「観光振興、鉱泉源保護、消防施設、環境衛生施設等の整備」に充当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 釧路市：一般の宿泊客1人1泊の入湯税を150円から250円に引き上げ。平成27年4月1日から税率変更。 ・ 美作市：旅館組合に入湯税収入の50%を還付（うち、15%は観光協会財源として充当）、入湯税は200円 ・ 鳥羽市：観光振興50%、鉱泉源保護30%、消防施策等10%、環境衛生施設10%、入湯税は150円 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 釧路市 1.6億円（平成29年度決算） ※引き上げ効果は6,275万円 ・ 美作市 4,200万円（平成29年度決算） ※従来、入湯税150円、入場料50円だったものを入湯税として200円徴収 ・ 鳥羽市 1.7億円（平成29年度決算） ※使途比率の合意の基、平成19年4月から徴収開始 	
	法定外税	法定外普通税	別荘等所有税	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和51年より実施。650円/m² ・ 別荘等の所有者が対象（旅館業法の許可を受けていない寮、保養所も対象） 	静岡県熱海市 5億円
			歴史と文化の環境税	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有料駐車場の利用者に対し徴収、全額基金化 ・ 二輪車50円、乗用車100円、マイクロバス300円、大型バス500円 ・ 基金運営委員会による予算、決算、提案 	福岡県 太宰府市 0.8億円
		法定外目的税	宿泊税	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京都：ホテル、旅館が対象であり、宿泊料金が1万円未満は免除 ・ 大阪府：ホテル、旅館、簡易宿所が対象であり、宿泊料金が1万円未満は免除 ・ 京都府：ホテル、旅館、簡易宿所、民泊を含む全宿泊施設が対象であり、宿泊者全員が対象 	東京都 21億円 大阪府 7.6億円 京都市 45.6億円（通年見通し。初年度は19億円）
			環境協力税	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県：1回の入域につき100円（障害者、高校生以下は免除）、環境の美化、環境の保全及び観光施設の維持整備に充当 ・ 岐阜県（乗鞍環境保全税）：乗鞍鶴ヶ池駐車場の利用者（運転手）に対し徴収、乗鞍地域の自然環境の保全に係る施策に充当 	沖縄県（伊是名・伊平屋・渡嘉敷・座間三） 岐阜県（乗鞍環境保全） 0.1億円
			遊漁税	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国初の法定外目的税。環境の美化及び施設の整備費用として充当。 ・ 15,000円未満100円、15,000円以上200円 を徴収（1万円以下は免除） 	山梨県富士河口湖町 0.1億円（H27年度）
	事業者		分担金	地域再生エリアマネジメント負担金制度（H30年6月施行）	

各自治体の税概要は以下のとおり

税	自治体名	施行日	賦課対象	課税対象 行為	税率・ 適用条件	税収 見込み	用途	課税免除 条件
宿泊税	京都府 京都市	2018年 10月1 日	宿泊者（ホ テル、旅館、 簡易宿所の ほか、違法 民泊等も含 む）	20,000円未満	200円	45.6億 円	<ul style="list-style-type: none"> 居住者にも来訪者にも京都の品格や魅力を実感できる取組の推進 入洛客の増加など、観光を取り巻く情勢の変化に対する受入環境の整備 京都の魅力の国内外への情報発信の強化 	修学旅行生等
		20,000円以上 50,000円未満		500円				
		50,000円以上		1,000円				
	石川県 金沢市	2019年 4月1日 予定	宿泊者（ホ テル、旅館、 簡易宿所の ほか、民泊 等も含む）	20,000円未満	200円	7.2億	<ul style="list-style-type: none"> まちの個性に磨きをかける歴史・伝統・文化の振興 観光客の受入れ環境の充実 市民生活と調和した持続可能な観光の振興 	特になし
		20,000円以上		500円				
	北海道 倶知安 町	2019年 11月1 日予定	宿泊者（ホ テル、旅館、 簡易宿所の ほか、民泊 等も含む）	宿泊料金の2%		2.6億～ 3.1億円	<ul style="list-style-type: none"> 世界有数の山岳リゾートとしての発展を目指し、地域魅力向上・観光振興を図る施策に充当 	修学旅行生等
		※定率制導入は全国初						
入湯税	大分県 別府市	2019年 4月1日 予定	鉱泉浴場へ の入湯客（1 人1日につき 宿泊料金及 び飲食料金が右記の 者）	1,500円以上 6,000円以下	現行据置 （50～ 150円）	+1.5億 円	<ul style="list-style-type: none"> 基幹産業である観光産業を推進し、将来に向けての市民生活の維持・安定を図る 行政と観光事業者等の観光分野に明るいメンバーにより観光施策に関する有効活用について協議し決定する予定 基金での管理 	<ul style="list-style-type: none"> 年齢12歳未満 共同浴場又は一般公衆浴場入浴者 修学旅行生 その他市長が特に必要があると認められた者
				6,001円以上 50,000円以下	250円 （100円 引上げ）			
				50,001円以上	500円 （350円 引上げ）			

- ✓ 国からの交付金を含めた歳入減などに伴い、観光関係事業費に充てられる予算は今後減少していく見込みである
- ✓ 地域経済をけん引する観光産業の活性化のためには、持続的な投資を行う必要がある



観光振興財源のあり方について検討が必要

1

前回までの議論の確認
(全体像、取組み方針と取り組む大交流モデル、推進体制)

2

本日議論いただく内容 (①推進体制及び活動領域)

3

本日議論いただく内容 (②目標設定)

4

本日議論いただく内容 (③観光振興財源)

5

本日議論いただく内容 (④ビジョン素案)



別紙参照

豊岡市

Toyooka City